

妙見宮の

春

まつり

主な行事予定

8日(土)11:00~12:00 神楽舞『あだち』奉納

主催:NPO法人 足立山麓文化村

出演:北九州市立足原小学校神楽クラブ

8日(土)12:00~13:00 勝美流社中 日本舞踊奉納

9日(日)10:00~11:00 吹奏楽部奉納演奏会

出演:北九州市立霧丘中学校 吹奏楽部

9日(日)13:00~16:00 豊前お神楽奉納

出演:豊前市 三毛門神楽講

10日(月)14:00~16:00 古市古流 呈茶奉納

小倉藩ゆかりの茶道 古市古流 抹茶の振舞い

13日(木)11:00~ 春季例大祭 祭典

みおやじんじゃ
御祖神社

あだちさんみょうけんぐう
足立山妙見宮

小倉北区妙見町17-2
☎ 093-921-2292

◆創作神楽舞『あだち』◆

NPO法人足立山麓文化村設立十周年記念事業として、池浦正勝氏のご尽力により、平成16年8月22日、北九州芸術劇場大ホールにて発表されたオリジナルの創作神楽です。足立山の四季の移り変わり、妙見宮に伝わる和氣清麻呂公の伝説を題材にして、作曲・構成を望月太津三郎先生に、神楽舞を日本舞踊勝美流家元勝美伊三次先生にお願いして完成されました。同年11月、当宮秋の大祭にて初めて奉納され、現在は毎年春の大祭前の神振行事として、当宮神楽殿において奉納されております。



◆豊前市三毛門神楽講◆



江戸時代、このあたりは社家であった高橋家によって伝授されたのが、三毛門神楽といわれています。近世文書によれば、高橋家は高瀬村の社家とされ、現在大分県中津市の人物で、土屋神楽の伝承にも関係したと想像されます。伝承される鬼面の一つには天保五(1834)年の銘が見られ、現存する豊前の神楽面の中で年代のわか最も古いものといえます。豊前神楽では普通『岩戸開き』は演目の最後に奉納されますが、ここは式神楽の最後、七番目に舞わます。これはかつては朝日が昇るに合わせて、岩戸を開くという意味があったためといわれます。さらに『神迎神楽』では、邇邇藝命のお共をする神々と猿田彦のせめぎ合いの最後に、鬼杖を刀で真っ二つに切る所作や、『綱駈仙神楽』でも蛇にたどえた大綱を刀で断ち切る場面があり、他の神楽には見られない特徴といえます。いずれも迫力満点で、観る者の度肝を抜く演目です。最近では『恵比寿神楽』という漁村ならではの新しい演目を加えるなど、古い伝統を守りつつ意欲的にその伝承に取り組んでいます。平成28年国の重要無形民俗文化財に指定されました。

◆茶道 古市古流について◆

古市流は、人々に『古流』と呼ばれる通り起源は古く、今から五百余年前、室町時代の中頃 古市播磨守胤栄を祖とした茶道です。江戸時代寛永九(1632)年秋、第四代了和の時、主君小笠原忠真が播州明石から豊前小倉に移った際、一緒に小倉へと移りました。小倉ゆかりの茶道として、現在も多くの愛好者によって受け継がれています。

◆妙見宮の由緒と歴史◆

「足立の妙見さん」で親しまれている当宮は、和氣清麻呂公が宝亀元年(七七〇年)に創建した神社です。「妙見さま(造化三神)」は、北極星・北斗七星が神格化した星霊信仰の御本尊で天空の中央に位置し、「北辰尊星妙見大菩薩」として現在も広く信仰されています。宝亀三年(七七二年)、国司・大伴百世の助けで、葛原峰が坂の足立に下宮「足立山平癒寺」を建立し、弘仁八年(八一七年)には、清麻呂公の三男・参議真綱卿が宇佐に勅使として参った帰り、下宮に父・清麻呂公と祖先である鐸石別命の神霊を祀りました。慶長六(1601)年、下宮を現在の地に移し、明治以降、神仏分離の布告の為、上宮・足立山妙見宮並びに下宮・足立山平癒寺を「御祖神社」と改称しました。昭和20(1945年)年以降、「足立山妙見宮」を再称しました。当宮は、和氣清麻呂公の足が治ったことから、足の神様として多くの人々が参拝に訪れます。また、国家・社会・個人の祈願所としての性格をもち、神仏習合のなごりを現在に伝える、全国でも数少ないお社の一つです。

